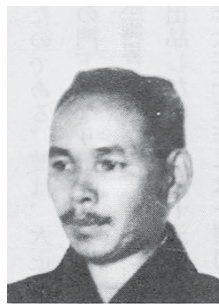


那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.29



関谷雲崖 (1880-1968)

5月号は、南画家として活躍し、伊王野とゆかりのある関谷雲崖を紹介します。

雲崖は、明治13年に河原村富貴田（現大田原市）の関谷平左衛門・ステの長男として生まれ、登一郎と名付けられました。雲崖の親類には、広報那須769号で紹介した芸術家・関谷富貴がいます（息子・関谷陽の妻）。

雲崖は、両郷小学校、伊王野尋常高等小学校高等科を卒業し、家業である農業を継ぎました。雲崖は幼少より画才に恵まれていたといえます。明治38年からは両郷村役場に勤務し、同40年に両郷村収入役を勤めています。

明治33年、雲崖は画家の寒川雲晃に出逢い、画業への思いが再燃すると、大正元年に単身上京し、南画家・小室翠雲に師事し画業を学びました。

雲崖は、大正4年に開催された第9回文展で「溪山新緑図」が初入選したことを皮切りに、文展、帝展で何度も作品が入選しています。また、大正5年には南画会出品作品が宮内省御用品となりました。このような活躍もあり、大正15年には、前貴族院議員・植竹三右衛門、前両郷村長・大平初太郎ら有志により、雲崖後援会が組織されました。

昭和4年になると雲崖は、小堀鞆音・小杉放庵・荒井寛方など東京で活躍していた栃木県ゆかりの日本画家らで、華厳社を立ち上げています。また同年に、日本南画院院友となるなど、雲崖は日本を代表する南画家の1人として活躍しました。

昭和17年、アジア・太平洋戦争のため郷里である富貴田に疎開し戻ると、昭和43年に89歳で亡くなるまで郷里で過ごしました。その間、地域住民に対し絵画を指導したり、絵行脚にいそしんだといえます。

5月19日より開催されるトピック展「那須ゆかりの美」後期展示では、雲崖が昭和29

年に美野沢小学校校舎新築の際に寄贈した「萬峰帰一」を公開します。この機会に旧伊王野小の先輩でもある彼の作品をご鑑賞ください。※肖像写真は、『黒羽町誌』より引用しました。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



関谷雲崖「萬峰帰一」

かつこう

「子育てっていつまでだろう？」ある人は「高校生まで」という。成年年齢が18歳になり、周囲から大人として扱われ、責任を自分自身が負うことになることから、これを機に子育ては終わるとのことだ。しかし、進学などで学費や生活費など金銭的な支援が続く場合もある。これにより、経済面でも生活面でも独り立ちした時に子育て

てが終わるともいわれている。また、共働き家庭が増えた今、子育てをサポートする祖父母世代も増えている。「孫育て」と呼ばれ、子育て世代の心強い味方となっている▼生活全ての世話をする乳児期、友達など周囲との関わりが増えてくる学童期、自立に近づく青年期など子育てはその時々に合わせて形を変えていき、子どもとの関わり方も、その都度変化していく。もしかしたら、子育ては「こ

こで終わり」と線を引くのは難しいのかも知れない▼「これ、変じゃない？」振り返ると、真新しい制服に身を包んだ息子が立っていた。リュックを背負って、どことなく不安げな様子だ。おそらく、昨日指摘されたことを気にしているのだろう。襟よし、ボタンよし、しわなし。大丈夫と伝えると、安心して出かけていった。成長し、手がかからなくなったと思っていた我が子だが、思いがけない質問をする様子は愛らしい。私の子育てはまだまだ続きそうだ。

こんにちは

赤ちゃん



令和5年12月生まれ

なぎと

相馬 凧斗くん

なぎとくんは...

3兄弟の末っ子！癒し担当です♪



「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係（☎72-6935）まで。

町の世帯と人口

(4月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数	10,747世帯 (+ 37)	出生	2人 (+ 1)
・人口	23,912人 (- 4)	死亡	37人 (- 1)
	男 11,923人 (- 7)	転入	131人 (+ 54)
	女 11,989人 (+ 3)	転出	103人 (+ 45)
		その他	3人増

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

